

新しい時代の始まり（支部講演会がWeb講演会で始まる）

はじめに

新しい時代が始まった。Society5.0な社会に変化している。その中で持続可能な社会を実現するための目標であるSDGsに貢献することが、公共の福利に資することになる。技術士会岐阜県支部で始まったWeb会議の利用は、そのための新しい動きとなるであろう。

1. 支部講演会の中断から再開へ

2020年は新型コロナウイルスのパンデミックが世界を止めた。日本国内では三密を避けるのが基本方針である。特に不要不急と考えられる活動は緊急避難的に中断された。当支部の講演会もその一つである。これにより、3月例会と5月例会は延期となった。しかし、不要な活動ではないため、再開をする方法が検討されていた。4月初めからWeb会議利用による再開の可能性が具体的に調査され始めた。何度も検討とWeb会議のテストが繰り返された結果、7月4日と9月12日にはWeb会議を利用して再開された。

数年後には当たり前のことになっていると予想されるが、2020年7月の時点では、開催方法や開催技術などの課題を考慮して、中断のままのグループも多かった時期である。会社や個人の家からアクセスする方法でのWeb会議方式を採用した当支部は、フロントランナーグループだったと思われる。

9月12日の講演会は有料であり、完全とは言えないが、従来の方法に近い効果のある講演会だった。

2. 距離の限界を超える

2.1 会議方式の比較

従来の会場へ集まる方式の会議をオフライン会議と称し、Web会議に代表される会場に集まらない方式の会議をオンライン会議と称する。オフライン会議へオンライン会議の仕組みを追加して行う会議をハイブリッド会議と呼ぶ。これらを比較すると、従来のオフラ

イン会議のメリットは、「参加者の表情が伝わる」「情報漏洩対策をしやすい」などである。一方、オンライン会議は「時間と移動の節約」「会議の自動記録機能がある」「公演中に質問を提出できるチャットという方法がある」「三密を避けられる」などであるが、オフライン会議のメリットが損なわれている面もある。両方を兼ねるハイブリッド会議（オフライン+オンライン）は「参加者が参加方法を選択できる」が、「オフライン参加のほうが有利」「ノウハウやルールが重要になる」などの特徴もある。

2. 2 距離の限界を超えることで得られること

オフライン講演会の参加のためには、会場へ移動し、参加費を支払う。遠隔地での講演会は費用面と時間の面で参加が困難である。岐阜市で講演会が行われれば、岐阜県内でも岐阜に近い地域内と愛知県の岐阜市に近い地域だけが参加しやすい。一方でオンライン講演会の参加は、参加時間と参加費だけである。参加費が割り引かれる場合もある。従って、日本国内であれば、おおむねどこでも参加しやすい。

2. 3 国境を越えた参加が現実化する

アメリカやアジア圏などからも同様に参加できる。距離の壁を超えるということである。受講者だけでなく、講演者も数千キロメートルのかなたからでも講演をできる。当支部の会員の中には、従来から海外での人脈を有している方もあるので、海外在住の方に現地からの講演を依頼することができるということである。

3. 新しい価値の創造

Society5.0 が具現化するにつれて、新しい価値が出てくる。その変化の中で、「遠い未来の子孫に豊かな自然と社会を残す」ということが必要である。これに資する活動は公共の福利に資することになる。すなわち、「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ：SDGs」を評価のチェックリストとして使うことができる。

3. 1 質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する。

目標 4 .すべての人々への包摂的かつ 公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する

ターゲット 4.3 2030 年までにすべての女性及び男性が、手頃な価格で質の高い技術教育、職業教育及び 大学を含む高等教育への平等なアクセスを得られるようにする。

日本技術士会 岐阜支部 会報

2020. 9. 15

とある。当支部の講演会は、質の高い技術教育であり高等教育である。これをオンライン講演ならば手頃な価格で提供できる。多くの方の生涯教育の一つとして選択できるように、幅広く情報提供することが必要である。例えば、生涯教育を行っている放送大学岐阜学習センターへ情報提供する。同時に、放送大学岐阜学習センターの公開講座を支部内で情報共有する。という協業活動がよい。また、ソフトピアジャパン関連の岐阜県IoTコンソーシアムや、岐阜県産業経済振興センターと連携し、それぞれが発行しているメーリングリストに投稿する方法もある。

3. 2 グローバルパートナーシップ

目標 17. 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する
ターゲット 17.16 すべての国々 特に関係途上国での持続可能な開発目標の達成を支援すべく、知識、専門的知見、技術及び資金源を動員、共有するマルチステークホルダー・パートナーシップによって補完しつつ、持続可能な開発のためのグローバル・パートナーシップを強化する。
ターゲット 17.17 さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。

とある。会員の海外の人脈を生かして、ターゲットに合う活動のとりかかりを、オンライン講座の受講者や講師を募ることにより、具現化できる可能性がある。

3. 3 さらに発展

前述した活動を発展させていくと、オフライン会議が必要となってくる。具体的に海外の人脈の方を訪問することや、来日を歓迎する活動ができる。この時には、技術士が取得できる APEC エンジニアや IPEA 国際エンジニアという国際資格を役立てられる。

おわりに

新型コロナウイルス対策がトリガーとなって始まった Web 講演会は、復旧作業だけではなく、新しい時代の始まりである。ハイブリッド講演会（オフライン+オンライン）に発展させ、より多くの方に参加いただき、より多くの方に講演いただく。そして、その発展として遠い未来の子孫に豊かな自然と社会を残していく活動の一つとしていく。そんな新しい時代の始まりになってほしいと考えている。

[日本技術士会岐阜支部 会報の情報連絡先]

〒509-0108 各務原市須衛町1-179-1 テクノプラザ5F

TEL : 0583-79-0580 FAX : 0583-85-4316 Email : gcea9901@ybb.ne.jp